

日時：2026 年 2 月 19 日（水）18：30～19：30

出席者：（学内）永下院長、岩下教授、越智教授、小舟准教授、森田(事務)
（学外）穴戸教授、酒巻教授、田中弁護士

【議題】

1. 司法試験の結果について

資料に基づき、永下院長より本年度の司法試験結果について説明がなされた。主な事項は下記の通り。

- ・全体：受験者 46 名、合格者 9 名（既修 6 名、未修 3 名）合格率 19.6%（前年比 8%低下）
- ・修了後：受験者 30 名（既修 16 名、未修 14 名）、合格者 2 名(既修 1 名、未修 1 名)、合格率 6.7%
- ・在学生：受験者 16 名（既修 8 名、未修 8 名）、合格者 7 名(既修 5 名、未修 2 名)、合格率 43.8%

短答式通過状況：修了生 30 名中 18 名通過（60.0%）、在学生 16 名中 14 名通過（87.5%）

（参考）全国法科平均：72.3%（修了者 66.8%、在学中 80.7%）

- ① 昨年度に比較して、大幅に順位が低下している。理由としては、実力が十分でない在学中受験者（母数）が増えた為。模試として受験している学生おり、制度上、受験を止めにくいものでもある為。結果として軒並み不合格となり、合格率が下がっている。
- ② 修了生の合格率が不振（2020 年卒・2021 年卒合格ゼロ・2021 年度卒 1 名）であり、法曹コース開始当初の受験生が抜け、母数として残らずに、残りのボリュームゾーンが大きく残っている為、合格率の低下に影響を与えている。
- ③ 予備試験資格で在学中合格した学生が、他に 2 名いる（1 名法曹コース、1 名未修）
- ④ 認証評価の基準（全国平均の 1/2 合格率以上）は、全体としては上回っているが、修了生は大きく下回っている。

委員から質問があり、院長が回答した。主な内容は下記の通り。

Q.在学中合格率 43.8%（全国 17 位）をどう受け止めていますか。

- ・A コース（在学中受験を目指す層）は GPA 等でクラス分けしており、想定通りに近い結果。
- ・B コース(上記以外)も受験資格があるため受験者が増え、ほぼ受からなかったことが合格率にも影響。
- ・結果に、手応えはないが、納得感はある。

Q.全体の短答合格率の高さについて、どう受け止めていますか。

- ・全国的に短答合格率は上昇傾向との認識。
- ・2020 年頃まで上智は短答合格率が低かったが、カリキュラム改革（短答マラソンの導入等）で改善。
- ・在学中で短答合格水準まで引き上げる手応えはある一方、B コースでは手が回らない状態で受験している面がある。

Q.修了生支援の現状はどうなっていますか。

- ・修了生支援委員会があり、教員アドバイザー制度（約 3 年前導入）により、未合格修了生へ定期的に連絡を取っている。但し、連絡不能・返信なしのケースも多い。
- ・司法試験前と結果後に面談等で状況把握を行っており、励ましている。
- ・在校生向けサービスと同等のものを修了生にも開放し、安価で提供している。但し、利用は一部に偏り、学習量不足等で厳しいケースもある。CBT システム利用についても、学内サービスと同等を提供していく方針。

2. CBT 化対応について

永下院長より、学内の状況が説明され、その後各委員の大学状況の紹介があった。

- ① 河合塾（コンバイン社）提供の CBT システムを採用
- ② 秋学期は中間試験 2 科目、期末試験は 19 科目で CBT 実施
- ③ 大きな障害はなく概ね実施できたが、学生から「やりにくい」声が下記多数あり。
 - ・問題文が紙でないのが辛い（特に長文の行政法などで問題文の行き来が困難など）
 - ・「目が滑る」（読み飛ばし）で重要事実を落としがち。
 - ・マーカーなど、書き込みがしづらい

以 上